

---

# あたしだけのもの

栗山ぶにねこ

---

## 注意事項

このPDFファイルは小説サイト「小説家になろう」で掲載中の小説を、「PDF小説ネット」の変換システムが自動的にPDF化したものです。この小説の著作権は作者にあり、作者または「小説家になろう」および「PDF小説ネット」を運営するウメ研究所に無断でこのPDFファイルおよび小説を引用を超える範囲で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止します。小説の紹介や個人用途での印刷および個人用途での保存はご自由にどうぞ。

### 【小説名】

あたしだけのもの

### 【Nコード】

N6794E

### 【作者名】

栗山ぷにねこ

### 【あらすじ】

男と別れてから1年経つてもまだ別れた事を認めようとはしない女、井ノ内千亜希<sup>このうちちあき</sup>。彼の心を取り戻したいと思っても、当の彼からは突き放されてしまう。頭にきた彼女は彼の新しい恋人を呪い始めるが……。『夏ホラー2008〜百物語編』参加作品。

あたしだけのもの

「都留男、あなたの為に生クリームたっぷりケーキを持ってきたわよ。」

「わーい、ありがとう。」

あたしが袋から手作りのケーキを取り出すと、都留男は子供のように喜んだ。

都留男は世間で言うあたしの「元カレ」に当たる。

でもあたしは別れたとは認めない。

あたし達の関係はずうっと続いている。そう思いたかった。でも・

・

「何だ、来てたのか。」

「あつ、大己。千亜希がまたケーキ持ってきてくれたんだぞ。」

「・・・そうか。それは良かったな。」

大己はそう言ってにこにこしながら都留男の頭を撫でた後、あたしを睨んだ。

そう、この大己とかいうおっさんがあたしのかわいい都留男を盗ったのだ。

ある日突然現れ、勝手に人の男を盗っていったにつっきおっさん。

絶対に許さないわ！

「なあ大己、今度の日曜日どこ行く？」

「うーんそうだなあ・・・遊園地なんかどうだ？」

「おっ、いいなあ。」

「じゃあ、これから会社の人と飲み会があるから行ってくるぜ。」

「いってらっしゃい。」

都留男はそう言って大己を見送った。

「よしっ、食べようぜ！」

「ええ。」

あたしはケーキを箱から出し、都留男はナイフを台所から持って

来て切り分けた。

お皿とフォークを持って来、切ったケーキを取り分けて美味しそうに食べ始める。

「ねえ都留男。」

「ん？何だ？」

「今でもあたしの事好き？」

「あのな、勘違いすんなよ。俺たちは1年前に終わってるんだぞ。」

「じゃあ何で毎回あたしを歓迎するの？何でケーキを美味しそうに食べてくれるの？」

「馬鹿だなあ。それはケーキが美味しいからに決まってるからだろ？」

「都留男はあたしが目当てなの？ケーキが目当てなの？」

「だから勘違いすんなよ。ケーキに決まってるだろ？」

その言葉が刺のように胸に突き刺さった。

「今の都留男にとってはあたしはただのケーキ職人なのね。」

「……ごめん。俺が悪かった。」

「いいのよ。今の都留男には大己の体の方がいいのね。」

「いきなり何だよ？！」

「でもあたしも結構良かったでしょ？」

「お前食べてる時にやめろよ！」

「ねえ、大己つてあたしより上手いの？」

「……上手いよ。お前の何十倍も上手いよ。」

「……そう。」

複雑だった。

あたしが8年間抱き続けた体を、今はあのにつくきおっさんが抱いている……。

ツンツンした茶色い髪も、太い眉毛も、大きな目と顔も、口元の皺も、かわいい耳も、ぶにぶにした手足も、縦にちっちゃくて横に少し大きい体も、全部奴の物……。

「千亜希、お前の為に歌を作ったんだぞ。」

「まあっ、ありがとう!」

「さっそく歌うぞ!あゝっ 千亜希は俺の太陽、世界一の愛を捧げよう」

「千亜希。喜ばしいニュースがあるぞ。」

「なあに?」

「なんと、おいらが書いた小説がドラマ化されるのです!」

「あらっ!おめでとう!」

「ありがとう!」

「千亜希、誕生日おめでとう!頑張ってお前の大好きなチェリーパイ、作ったぞ!」

「都留男・・・ありがとう!」

「いいわねえ。TVに出てる女優さんは綺麗で。」

「千亜希はもっとな綺麗だよ。」

「まあ、ありがとう。」

「愛してるよ、千亜希。」

「あたしも。」

「なあ、千亜希。」

「ん?」

「おいら達、ずっと一緒にだよな。」

「ええ、ずっと一緒によ。」

「良かった。」

「ねえ、結婚したらどうする?やっぱり子供は2人ぐらい欲しいなあ。男の子と女の子1人ずつ。」

「おいおい。まだ気が早いだろ?」

「いいじゃないの。やっぱり住むなら一戸建てよねえ。犬より猫を

飼いたいわ。あたしがエプロンを付けておしゃれな台所で料理を作  
つて、出来たら2階で執筆してる都留男を呼ぶの。」

「2階建てか。いいなあ。その為にはおいらがもつともつと売れな  
きゃいけねえなあ。」

「そうねえ。子供達がのびのび遊べるお庭や花壇も欲しいわ。」

「夢が膨らむなあ。」

「その前に結婚式よね。海外で挙式する？」

「日本でいいだろ？」

「真っ白なウエディングドレス着てティアラを付けるの。芳乃も由  
美も仁之も民之亮も島山さんも皆お祝いに来て、最後にあたしがブ  
ーケトスをするのよ。」

「誰が受け取るんだ？」

「それは分からないわ。ねえ、絶対幸せになりましょうね。」

「おう！」

嘘つき。

結局あなたはあたしを不幸にしたただけだった。

男なんて身勝手なものね。

あんなに「愛してる」だの「ずっと一緒だよな？」だの言っ  
てくれたのに！

あのおっさんの何がいいのよ！

何であたしの前でいちゃいちゃするのよ？！

日曜日が何よ！遊園地が何よ！

あたしにそんなの見せつけないでよ！

「ごちそうさま。千亜希、仁之からお笑いのDVD借りてるんだ。  
お前も見るか？」

都留男はそう言っ立ち上がった。

「見ないわよ。」

「・・・そうか。」

TVの前のソファーまで移動する都留男。

「見るならあたしを見てよ！」

「お前いい加減にしろよ！」

「あんたは元々あたしのものでしょうが！」

「何事にも終わりつてもんはあるんだよ！」

また言葉の刺があたしの胸を刺した。

そうなのね。そんなにあのクソオヤジとの愛を続けたいのね。でも残念。あんたは永遠にあたしのもものだから。

こうなったら、やっぱりもう一度魅了するしかないわね。

そう思い、都留男を抱きしめて強引にキスし始めた。

ソファーに倒れるあたし達。

都留男の舌とっても美味しい。

この舌はあたしだけのもの。

そう、この温かい体も、かわいい乳首も、小さめのかわいい象さんも、全部あたしのももの。

ディープキスをしながら都留男の体を撫で回す。

かわいいかわいいあたしだけの都留男。

誰にも渡すもんですか！

「うっ……うっ……うぐうっ……や……やめるよ！」

突然都留男があたしを押し倒した。

「お前何考えてんだよ?! いい加減にしろよ!俺はもう女には興味ねえんだよ!」

「何よ!男のどこがいいのよ?!あんなおっさんに抱かれてあんた嬉しいわけ?!」

「ああ嬉しいさ!あいつに抱かれるのがおいらの至福の時なんだよ!お前に強引にやれるのとは大違いだ!」

「……今日はもう帰るわ!」

「ああ帰れよ!もう二度と来んな!」

あたしは鞆を持ってそそくさとその場から去って行った。

許さない許さない許さない許さない許さない許さない許さない許





あたし達は今、南青山にあるカフェでお茶している。

「何が？」

「大己が急に海外に飛ばされて、「一生ここで暮らせ！」って言われ  
たらしいのよ。警備会社なのに何でそんな事があるのかしら？」

「都留男は？」

「かなりシヨックだったみたいでもものすんごく落ち込んでるわよ。」

「じゃあ励ましに行かないと。」

「あなたの言葉なんか耳に入らないと思うわよ。」

「でも励ましてあげないとかわいそうなんじゃないかしら？」

「まあ・・・確かに・・・ねえ。」

「じゃああたし、行ってくるわ。」

そう言って、お金を置いてお店を出た。

「何の用だよ?!」

都留男はインターホン越しにそう言った。

「何の用って、励ましに来たのよ。」

「余計なお世話なんだよ?! 帰ってくれ!」

胸に突き刺さる言葉の刺。

何であたしがここまで突き放されなきゃいけないのよ?!

せつかく心配して来たのに!

「何であたしじゃ駄目なの？」

「俺はもう女に興味ねえんだよ!」

「男のどこがいいのよ?!」

「いい加減にしてくれ!」

おかしい! こんなのおかしい!

幸せを取り戻す為にヤツを呪ったのに、何でこうなるの?!

何が、何がいけないの?!

あたしのどこがいけないの?!

何で男は身勝手なの?!

分からない! もう何もかも分からない!

どうして都留男はあたしだけのものにならないの?!  
どうして?!

数週間後

呼び鈴が鳴り、都留男はインターホンのスイッチを入れた。

画面には運送業者が移り、しばらくして見た事もない家具が運ばれてきた。

ひたすら驚く都留男。

そこに千亜希が現れた。

「お前何しに来たんだよ?!」

「何しにも何も、今日からここに住むのよ。」

「えっ?!」

「あたし、都留男の永遠の彼女だから。」

(後書き)

あとがき

初めての企画参加作品でございます。

作品の雰囲気やらメインがおやじ萌えである事やらで連載では書けなかつた千亜希の内面が書けました( ^ | ^ )

果たしてホラー要素はあったのかどうか謎ですが、前から書いてみたかった企画小説が書けて良かったです( ^ ^ )

あたしだけのもの

PDF小説ネットは2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

### PDF小説ネット発足にあたって

# 広告募集中

小説関連広告に最適です。

出版社や印刷会社はもちろん、  
個人の広告でもOK

縦：140mm 横：110mm

詳しくはPDF小説ネット広告募集をご覧ください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n6794e/>

---

あたしだけのもの

2009年6月29日19時17分発行